

主催：京都府勤労者山岳連盟 救助隊  
 日時：2月3日（日）9時～15時 くもりのち雨  
 場所：比良正面谷（比良イン谷口～堂満第2ルンゼ）



負傷者の梱包



正面谷へ移動



斜面でビーコン探索



埋没者（ビーコン）を発見

9 労山から 25 名の参加で、田辺山友会からは秋山さんと平尾が参加しました。午前中、イン谷口上部公園（トイレ前）で 2 班に分れ、プローブの使い方及び負傷者を搬出する準備として梱包の仕方を学びました。その後移動し大山口から青ガレに向かう登山道の少し広くなったところでビーコンによる搜索の練習をしました。救助隊スタッフが隠した 4 個のビーコンを埋没者に見立て雪の積もった斜面を膝の少し上まで入りながら探しました。5 分以内の発見が課題です。会備品のビーコンを借用して行いましたが、デジタルビーコンはアナログに比べ感度は劣るが操作はたやすく距離表示が少なくなる方向へ向かい、2m以下になると十字法で埋没位置を特定し、割と早く発見することができました。短い昼食後、堂満第 2 ルンゼに移動し、ワカンの歩行練習と、大山口まで負傷者の搬出を行いました。以下訓練の内容の概要を記載します。

1 プローブ搜索 プローブの伸ばし方：釣り竿を伸ばすように前に投げる（斜面では下方向へ）

#### ※プローブの搜索方法

##### ①雪崩発生直後のプローブ搜索

ビーコン受信器で特定した箇所から「の」の字に沿って回りながら 25cm 間隔で、プローブを雪面に対して直角に刺す

##### ②雪崩発生遺体搜索のプローブ搜索

両足を肩幅（約 40cm くらい）程度に開き、手を軽く腰に当て隣の人と互いの肘と肘がくっつく程度に横一列に並び、下流から上流へ 25cm 四方を網目のように突き刺して探す。「左」「中」「右」「前へ」（京都では統一）の号令に従い順にすすんでいく。プローブは雪面に対し鉛直線方向に刺す

##### ③ビーコン不携帯の埋没者の搜索方法 早期発見のため粗く早く行う

突き刺す間隔は 50cm、深さは 1.5m 程度で、下流から 50cm ずつ上流へすすむ。

搜索は 5 分以内に発見できるかどうかのカギ

2 ビーコン搜索 雪の斜面に埋没されたビーコンを探す訓練

斜面の雪の中に埋められた 4 個のビーコンを 1 班は 9 人で探した。最初の 1 個は 5 分以内で発見できたが、残りは 8 分ほどかかってしまった。何回か繰り返した。ビーコンが 2m 以内

を示すと十字法で位置を特定しスコープで掘り出した。プローブで探す訓練もした。

### 3 梱包

シート（カバー）の上にマットを敷き、負傷者を寝かす。頭の下には枕（ツェルトなど）、体の上に上着などをかける。負傷者のハーネスにメインロープを繋ぎ、スリングを×印にしてその中に足を入れ括る、負傷者の肩、腰、膝の少し下の3ヶ所の両横にカラビナ（なければ石など）を置き、シートの外側から細紐、スリングなどで固定する（できるだけ体の近くで）、シートを負傷者の前で覆い両側からスリングを縛る（堅結びでよい）、頭側も同様にする、細紐を頭側を輪にして足側に2本（引張用）つなぐ。

### 4 ワカンの歩行練習

堂満第2ルンゼの斜面でワカン歩行の練習をする。装着は、斜面山側に向かい前面の雪を平らにして足を置き装着する（アイゼンも同じ）。ワカンは雪面に足を鉛直に降ろし、傾斜のきつい斜面では、ピッケルを前に突き、膝で雪を崩してその上をワカンで踏み込む。

### 5 搬出

ルンゼから大山口まで班毎に負傷者を梱包し搬出する。梱包した負傷者の足側を下に前から2人がひもをゆっくり引っ張り雪の登山道を降ろしていく。1班は両横にもスリングをつけ左右に2人がついて石などに当たらず調整をしながら降りた。数ヶ所あった堰堤横等の急傾斜では、頭側に結んだロープを途中の樹木で支点確保しながら慎重に下りた。最初の急坂は登山道を避け右へ迂回し斜面を降りた。私は右サイドでスリングを引っ張っていたが、足が太腿の半ばまで雪にズボズボ沈み込むので必死について行った。1班は秋山さんに負傷者役をやってもらったがシートの中で様子がわからないなか、時々負傷者に声をかけ様子を聞き、作業や登山道の状況など知らせることが大切だと確認、背中が冷たかったそうなので工夫が必要だと思う。雪に足がめり込んで思わず声を上げたのは反省点です。

初級登山学校以来十数年ぶりの参加だったので、前日にノートや・テキストを引っ張り出して目を通しましたが、捜索法など随分変わっている点があることがわかり、初心にかえり最新の方法を身につけるつもりでとりくみました。（ゾンデ棒はプローブに名称変更、ビーコンはデジタル中心に小型の新しいものになっている、電波誘導法と直角法が十字法に、プローブ捜索も40cm間隔が、25cm・50cmでなど）。会の備品を借用して参加しましたが、参加者全員が持参していたのでビーコン探索も全員でくりかえしできた。クローブヒッチでカラビナにスリングをすばやく繋げるようロープワークもしっかりマスターしておくことが必要と再認識しました。

<積雪期搬出訓練に参加して思うこと>

秋山 正子

2月3日、京都府連盟の積雪期搬出訓練に参加させていただきました。

私も、何年かぶりの参加で、忘れていたことや変更になっていることもたくさんありましたが、ほとんど平尾さんが説明してくださっているので内容は省きます。

今回はじめて要救助者になり、気がついたことがありました。

何回か参加させていただいておりましたがいままでは梱包されて2～3分、あるいは5分くらいで修了しておりました。今回30分以上の間（あるいはもっと長かったかも）、ずっと引きづられていました。その間、「大丈夫ですか？」「出発しますよ」とかの声をかけてもらおうと安心しましたが、ネガティブな言葉に思った以上に不安を感じました。そのほか、振動もきつくてほんとに骨が折れてたらこんな長時間ひきづられるのは地獄だと思いました。梱包の仕方もですが、プローブの扱い方やビーコンの使い方、定期的に勉強していないとほんとに忘れてますね。ロープワークも忘れてますし。時々、講習会に参加しようと思いましたが。